

〔優秀賞〕

◇ 一人一人が生きやすい社会へ ◇

吾妻小学校 6年 高橋 奏音

「男だから仕事をして、女だから家事をする。」「男の子なんだからなかない。」「女の子らしくする。」以前は当たり前のようにこう考えられていたようです。今ではこの考え方は見直されてきましたが、「男だから」とか、「女なのに」という言葉を聞くこともあります。

男性と女性を比べると、男性には力仕事得意な人が多く、女性には細かい作業が得意な人が多いかもしれません。しかし、全員がそうであるわけではありません。細かい作業が好きな男性、力仕事得意な女性もいます。ぼくは、一人一人の個性をそんちょうする社会になればすごくいいなと思います。

職業でも、性別のかきねなく、だれもがやりたい仕事につくことができると思います。昔の日本には、男性にしかできないと言われていた職業がありました。タクシードライバーや、パイロットなどです。でも、これらの職業になりたいと思う女性が少なかつただけで、今は女性もかつやくしています。反対に、女性ばかりの職業もありました。保育士や看護師です。ぼくが通っていた保育園でも男性の先生が数人いて、運動会や発表会の時には重い荷物を運んだり、高い場所の作業をしたりしていました。女性しかいなかった職場に男性が入っていくことで、プラスの面が多いように思います。

以前は、家庭の中でも男女で役割が決まっていたそうです。男性は外で仕事をして、女性が家事や育児をする。長い間、日本ではこのような考えがありました。しかし、今は仕

事をしている女性も多く、家の中のことを分担している家庭もたくさんあると思います。ぼくの母は、仕事で帰りが遅く、料理が上手な父が夕飯を作ってくれます。おいしいごはんを早い時間に食べることができ、みんな父に感謝しています。我が家では当たり前のことも、昔では考えられなかったことかもしれません。家族で協力し合うことで、女性も社会の中で活やくできるようになるのだと思います。

また、男女がともに社会で活やくするには社会全体が整備されていくことも大切だと思います。例えば、職場環境です。それぞれの生活に合わせた働き方ができたり、だれもが育児休業をとったりできたら、無理なく仕事を続けていくことができると思います。また、保育園や老人ホームなどのしせつが整い、地域の支えんを受けられるようになることも大切でしょう。

すべての人がひとりの人間として能力をはっきできる社会を目指し、おたがいを思い、認め合って、男女がともに夢や希望を実現できるようにになるとよいと思います。これからのみらいのために、ぼくにどんなことができるか考えていきたいと思っています。